

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成25年度第1回情報教育研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成25年5月1日(水)午後4時～午後6時  
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：向殿理事、村井委員長、斎藤副委員長、玉田委員、照屋委員、大原アドバイザー、真下アドバイザー  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 担当理事挨拶及び委員紹介、25年活動方針

- ・ 情報教育研究委員会及び分科会について説明され、委員の紹介を行った。
- ・ 情報リテラシー・情報倫理分科会は、提言に掲載したガイドラインについてアンケートを実施。その上で、ガイドラインお見直しをして到達度評価の内容・水準・評価方法の在り方について研究を進める。
- ・ 情報専門分科会は、提言に掲載した教育改善モデルについてアンケートを実施し、その上でイノベーションに繋がる教育の仕組みについて研究を進める。
- ・ 分野別情報教育分科会は、24年度の超過結果を踏まえて効果的な教育方法の事例を分野ごとに整理する。
- ・ 情報教育高大接続分科会は、共通教科情報を担当する教員の指導能力の支援の在り方、教員養成課程の全ての協会で情報の実践や科目編成の改定、大学入試での情報関係科目の導入などの問題の研究を進める。
- ・ 大学教育における情報教育の位置付け、カリキュラム、教員体制、教員指導能力の開発、学修支援体制、産業界との連携、高校教育との接続など教育の政策にかかわる課題・戦略について行動指針を整理し、大学に働きかける。
- ・ 「人口70億人時代のネット社会を創造するためのフォーラム」をインターネットで配信する。25年度は情報ネットが持つ力を利用して発展につなげていくための視点の一端を紹介していく。

2. 24年度の事業活動報告

- ・ リテラシーはイノベーションにつながる基盤的な技術や理解で貢献できるところまでにしたが、アンケートをとりながら更新することになっている。
- ・ 専門は、学士力と改善モデルをまとめ、専門的に特化するのではなく、豊かな社会の実現にコミットできるようにすること。PBL（プロジェクトおよびプロブレムの両論併記）をツールとして学生に解のない問題を解かせる学びのプロセス、アクティブ・ラーニングを推進する。PBLで知識を定着させる訓練を行う。
- ・ 分野別は、ガイドラインからアンケートにより大学の状況を確認した。エクセレンスから詳細なデータをもらって紹介することになっている。
- ・ 大学における情報活用能力の充実・教科の課題は、情報教育に対する積極的関心、体系的な仕組み、教員の研修、ガバナンス、高校との連携（教員の養成）などがある。

3. フォーラム実施に向けて委員の意見

- ・ 善意だけでなく、危険なところも見せる必要があるのではないかと。
- ・ 使い始める前に指導する必要がある。
- ・ 前向きさと注意、発信と攻撃の両立をどう図るのか。
- ・ 24年度は前向きな話で進めた。
- ・ ネットに向かい合う時に考えておかななくてはいけないことは何か。
- ・ 情報を学ばなくてはならないことへのモチベーションになるもの。例として企業のSNS利用
- ・ 効果とリスクをバランスを取りながら実施してはどうか。
- ・ 年代別の対応として気づきを提供できないか。
- ・ 光と影を説明できないか。
- ・ 事例を示すことや実験の場として提供できないか。
- ・ モラルを持っていないひとに攻撃されたらどうかなど。

4. 今後のスケジュール

- ・ 1月にフォーラムを実施するため、今年度は委員会を4回開催を予定している。